

Measures to enhance the significance of student learning in junior high school social studies : Remote small group lesson practice that regards teaching materials as one's own affairs and makes them aware of their perspectives and ways of thinking

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-03-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 内山, 和紀 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00028716

教育実践報告

中学校社会科における生徒の学びの意義を高める手立て

ー教材を自分事として捉え、見方・考え方を自覚させる、リモート小集団授業実践ー

内山 和紀

(静岡大学教育学部附属島田中学校)

Measures to enhance the significance of student learning in junior high school social studies

Remote small group lesson practice that regards teaching materials as one's own affairs and makes them aware of their perspectives and ways of thinking

Uchiyama Kazuki

要旨

中学校社会科を学ぶ生徒たちは、社会科を学ぶ意義をどのように捉えているのだろうか。主体的に社会に参加できる資質・能力の高まりを目指し、世界の諸地域アジア州の単元において、教材を自分事に感じさせること、見方・考え方を生徒に自覚させることの手立てについてまとめた。また、附属中学校と地域の公立中学校で合同のリモート小集団授業を実践し、なぜ社会科を学ぶのか、生徒たちの意識の変容を考察した。

キーワード： 主体的 世界の諸地域 アジア州 見方・考え方 自分事 ICT リモート授業

1 はじめに（研究の背景と目的）



(図1)教科テーマのイメージ図

本校では、「主体的に社会に参加できる資質・能力の高まり」という教科テーマに基づき、実践研究に取り組んでいる。(図1)キー・コンピテンシーの育成理念をベースに、現在または将来のより良い社会を協働的に構想することを通して、主体的に既存の社会により良く参加できるという自信や誇りなどの、内面的な態度を養いたいという思いを込めている。また、図1中の「社会へのアプローチ」を、教室を越えて、考察や構想の成果を机上の空論で終わらせず、理念をもって行動に結びつけ具現化することと定め、各単元におけるその方略を模索している。

社会に参加できる資質・能力および態度を下記Ⅰ～

Ⅲのようにまとめた。

- Ⅰ 社会を身近な自分事として捉え、現実（リアルな）社会（生活）に対する考えと行動を示す態度
- Ⅱ 社会を考察・構想するための見方・考え方を自覚した上で育まれる、確かな多面的・多角的な思考力・判断力・表現力（能力）
- Ⅲ 自己の学習を調整しながらも、他者との関わりを尊重できる協調性（資質）

Ⅲの自己調整を促すような手立てとして、①学習の評価、②学習のための評価、③学習者としての評価などの段階的な評価の視点を取り入れ、③については生徒たち自らが目標を設定し、ルーブリックによる評価基準を設定するなどの試みを行っている。

こうした本テーマに迫るための実践における手立てとして、ア・イの2つの柱を設定した。

アー教材を自分事に感じさせて（背景と目的）

本テーマに迫るための授業を日々行う中で、生徒から「なぜ社会科を学ぶのか」という声が聞かれた。単元を貫くパフォーマンス課題を設定し、現在や将来における仮想的な立場を与えて追究させようとするが、ある生徒から「なんでパフォーマンスしなきゃいけないの」というストレートな疑問を投げかけられたときに、返答に困ってしまった。パフォーマンス課題は、ペーパーテストでは測り難い思考力や判断力といったスキルを評価する上で重要であり、パフォーマンスの

積み重ねは、将来生徒たちに必要な資質・能力の育成につながると考えられている。しかし、生徒の立場からすれば、現在も将来もジャーナリストや省庁の役人になるわけではないし、「結局自分とは関係ないでござと」として、単元課題を認識しているように思う。いかに中学校社会科における教材を、リアルな社会、生徒の生活に即した「自分事」として認識できるか否かが、本教科テーマに迫る「主体的に社会に参加できる」かの明暗を分けると考えている。

イー見方・考え方を自覚させて（背景と目的）

学習への意欲が比較的高い本校の生徒であっても、「ペーパーテストでいかに点を取るか」が一番の関心どころであり、社会は暗記科目だという意識が、生徒たちに根強くある。技能教科の創作にはない、理科の実験や英語のプレゼンにはない、社会科の協働的な追究でしか得ることができない「追究してよかった」「面白い」という肯定的な感情を引き出したいと願っている。そのためには、「社会科の授業なら、知識以外にこれが学べる」というのを生徒が理解しているのが望ましいと考えた。理解させるためには、社会科における見方・考え方を指導者が理解しているにとどめず、授業を通して生徒も涵養的にそうしたスキルを知識として把握していくことが必要だと考えた。その方が授業終に、地理や歴史の用語を習ったというよりも、社会をどう学べばよいか、課題をどのように解決したか、どのように社会を構想したか、どのように社会へアプローチできるか、などのより発展的で「多面的・多角的な」思考を肯定的に生徒が捉えられるはずである。学びのプロセスを振り返り、どんな見方・考え方を学んだのか、生徒が自覚できる授業展開を試みていく。

このような教科テーマに基づき、令和2年度に地理的分野、世界の諸地域アジア州にて単元を構想し、公開授業実践を行った。令和3年度はそのアジア州の本校実践をモデルにして、2名の研究協力員の先生方に検証授業をしていただいた。公立中学校の生徒の実態に合わせてリメイクしていただいた上で、リモート小集団追究授業と称して、これまでのアジア州の学習内容を共有し、選択・判断できる構想場面を設け、協働的に課題解決に取り組むことができた。教室をこえた学びの成果の相互評価が行われることで、生徒の社会科教材への意識の変容、社会科を学ぶ意義の変容などをアンケートによって見取ることにした。

2 本研究で扱った単元「世界の諸地域 アジア州」について

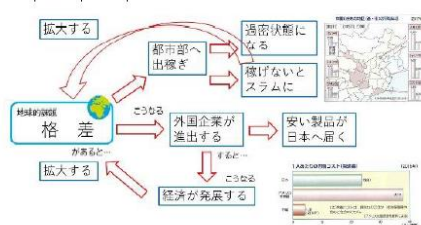
アジア州は世界の諸地域を学習する上で、日本との地理的な近さが起因となり、最初に扱われることが多い小項目である。世界の諸地域における地理的事象や

地球的課題を「自分事」として捉える学習観を生徒に養うための、足がかりとなる小項目だと考えられる。アジア州には急速な都市化にともなう格差や公害、急速な人口増加にともなう食料やエネルギー資源の確保に関する課題などの地球的課題が見られる。これらの要因や影響を、グローバル化が進む国際社会を視野に、身近な事象「自分事」として生徒に捉えさせ、必要感のある持続可能な社会についての主体的で深い構想をさせたいと考えた。

6 単元計画 (8時間扱)

(○…「評価に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)

次 時	＜課 題＞・学習活動『目指す生徒の姿』	有機的に関連づけたい事柄	知	思	態	評 価
第一次 課題をつかむ P	1 - 事前課題として、家庭にある物の製造表示を撮影し、Google Classroom に投稿する。 ＜Made in アジア製品には、どのようなものがあるのか。＞ - 外務省の海外在留邦人数調査統計に関する資料を読み取り、多くの日系企業がアジアに拠点を持っていることを理解する。 - 小集団でホワイトボードにアジアで造られた製品や（生徒が耳にしたことがある）企業名を国別に書き出し、分類する。 - アジアの国名や都市名、地形名などと共に、アジア製品や日系企業の位置を白地図にまとめる。 - 最も印象に残ったアジア製品と、その製品を手に取り考えたことをポートフォリオに記述する。 『普段何気なく触れている身近な製品の多くは、アジアで製造されたものである。地図や資料をながめてみると、多様な自然環境をもつアジアへ企業が進出し、私たちの生活とつながりを感じる。なぜ…、どのように…、様々な新たな疑問がわいてきた。』 河川・半島・高原・砂漠・島などの自然環境に関する地形名、国名、都市名			●	●	●機械、繊維、日用品、食品など種類別に分類し、その国の産業や貿易の傾向としてまとめ、適切に表現している。 (思考・判断・表現) ●形状や標高、資源などの情報を地図帳などの資料から適切に読み取り、白地図へのまとめに活用している。 (知識・技能) ○ I (→第四次 9 時との変容) (主体的に学習に取り組む態度)
2	- アジア各国の名目 GDP の変化に関する資料や都市の景観写真を読み取り、近年アジアが急激な経済発展を遂げていることを理解する。(併せて、GDP とは何か、なぜ経済発展が見込める地域へ企業が拠点進出したいと考えるのか簡単に理解する。) 2030 年までに、アジアの中でどの地域がさらなる経済発展を遂げるか？ ＜アジアの中でどの地域がさらなる経済発展を遂げるか、予想しよう。＞ 1 位から 4 位の予想を立てながら、より正確に判断するために学ぶ必要があると考えられる Item (項目) を、付せん「単語」または「タイトル」で書き出し、全体で共有する。例：「人口」「輸出品」など - 調べる地域（赴任先）を選択、決定する。 『30 年間でアジアの各地域の GDP が増加し続けており、今後も経済発展が見込める。どのように経済発展がなされてきたのだろう。発展の伸び率の予想を立ててみたが、人口構成や宗教、産業など(Item:項目)について、もっと調べる必要がありそうだ。特に私はアジアの中でも「Oアジア」(区分)を調べてみよう。』 GDP (国内総生産)、東アジア・東南アジアなどのアジア州の細かい区分		○ II II	●	●	○ II (→第三次 6 時との変容) (思考・判断・表現) ●判断理由を項目としての短い言葉へ要約し、表現できる。(思考・判断・表現) ●決定の理由に「～が気になる。」「～を調べたい。」などの自己調整学習に関する記述が見られる。 (主体的に学習に取り組む態度)

	・アジアの各地域の特殊性をおさえつつ、経済発展の要因となる共通項目を整理する。 『アジア州のどの地域も生産物や輸出品に特色が見られ、他国とのつながりにより経済を発展させてきた。文化や教育、歴史や自然環境などが共通して経済に影響を与えていることが分かった。例えば人口は労働力、資源はその地域の得意とする産業を生み、外国企業を誘致して技術を得てきた。』	○		○各地域に共通して見られる経済発展の要因となる項目について、根拠を明確にして記述している。 (知識・技能)
第三次 構想する A	6 <2030 年までにアジアのどの地域がさらなる経済発展を遂げるか、最終結論を出そう。> ・小集団で経済発展の伸び率をランキングで表す。 ・シンポジウムの形式を採り、小集団ごとに意見を述べ合い、質疑応答を繰り返す。 ・最終結論（個人の考え）をポートフォリオに記述する。 ・日系企業が進出を希望している（パフォーマンス的課題）として、最終結論についてプレゼンテーションをする。 『Item(項目)を通して経済発展の理由を追究したことで、考えが変わった。○○アジアの強みは…だと考える。企業が進出する理由についても考えが深まった。』	↓ ○ II		○II (←第一次2時との変容) ランキングの理由を、以前よりも多くの視点で、多面的・多角的な考察を基に表現している。 (思考・判断・表現)
第四次 構想する (二次構想)	7 ・「1位の○○アジアは、本当にこのまま順調に経済発展を続けることができるのか。」再構想する。 ・アジアにはどのような課題があるか確認する。 <「経済発展」「地球的課題」「私」には、どのような関係があるか。> ・個人で地球的課題について、付箋を用いてシナリオプランニング（因果関係の図式化）する。 ・小集団で「地球的課題」「経済発展」「私」の言葉とその関係をホワイトボード上に図式化する。 『課題が解決または緩和されなければ、経済発展は滞り、アジアの人々の暮らしも苦しくなる。地球的課題と経済発展の因果関係が分かった。私もアジア経済の恩恵を受けているのだから、アジアに見られる地球的課題を考える必要がある。』		●	●地球的課題と経済発展の因果関係について、既習事項を基に多角的に考察し、図式化できる。 (思考・判断・表現)
	8 <2030 年アジアの持続可能な社会をつくるために、「企業」と「私」にどのような考え方（姿勢）や行動が必要か。> ・前時を振り返り、アジア州で働く日系企業と、日本に住む生徒個人に何ができるのか考察し、提案する。 ・最も印象に残ったアジア製品と、その製品を手に取り考えることをポートフォリオに記述する。 『アジア州の経済発展の裏側には、解決すべき地球的課題がある。企業は労働環境について配慮するなど、国をこえて課題に対する責任をもつ必要がある。私は、アジア製品が多くの人の努力によって造られたことを自覚し、ものを大切にしたり、フードロスを減らしたりする努力をしようと考えた。お気に入りの製品を手にとると、学んだアジア州の姿が浮かぶ。』	↓ ○ I		○I (←第一次1時との変容) 身近なアジア製品から既習事項を思い浮かべ、グローバル化を自分事としてさらに考えを深めている。 (主体的に学習に取り組む態度)

3 実践報告Ⅰ アー教材を自分事に感じさせて

(1) GoogleClassroom を活用した身近な製品の調査

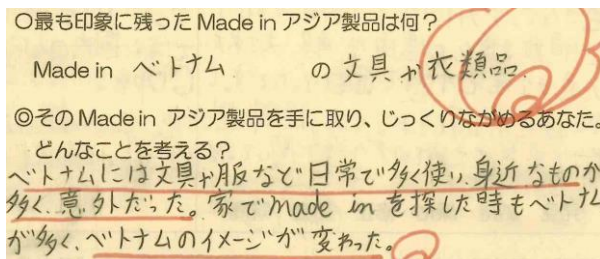
本校では、生徒一人ひとりに Google アカウントを配布しており、学級教科毎に Classroom を作成し授業で活用している。本実践の第1時における「身近な製品の調査」では、生徒に事前課題として身近な製品を撮影し、Classroom のストリームに投稿してもらった。普段生徒が愛用している身近な物や家電、台所用品など、さまざまな製品のタグから製造国を割り出し、小集団で分析的な追究を行った。小集団で追究していく中で、自分の製品について話題になった生徒は、授業後の振り返り記述において、単元課題のアジア経済に対する疑問や探求意欲を自らもった生徒が多くみられた。「自分事」と「単元(教材)」が導入において結びついたように考える。また、授業後も MadeIn アジアの製品について主体的に調査し、ストリームに投稿する生徒もいた。自らの調査、学習成果を授業外においても仲間に見てもらえる環境が、探求意欲に結びついている生徒もいると考える。



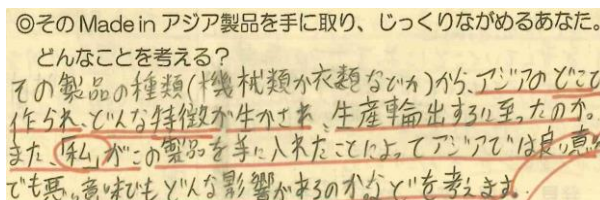
(図2)GoogleClassroomを活用した身近な製品の調査 ストリームに投稿された画像

(2) ポートフォリオの振り返り記述の工夫

生徒のメタ認知を促し、教師がアセスメント評価(学習のための評価)を与えやすくなるよう、ポートフォリオを活用した。図はポートフォリオの第1時と第8時の生徒の振り返り記述である。あえて生徒が自ら調査した製品をメインに記述させ、少しでも生徒の「生活」場面と本実践での学びが結びつくことを狙いとした。例の生徒に関しては、8時間の授業を通して、同じ場面においても多面的・多角的な思考が身についていると資質・能力の変容を評価できる。また、「生活」場面から始まる一枚のポートフォリオ構成であることで、アジア州に見られる地球的課題をも「自分事」として捉えるような記述や、自ら問いをもつ記述が多く見られた。



(図3)生徒Aの第1時のポートフォリオ振り返り記述



(図4)生徒Aの第8時のポートフォリオ振り返り記述

(表1)第1時と第8時のポートフォリオ振り返り記述
＜上段は第1時、下段は第8時＞

(Made in) タイの冷蔵庫 日本とタイの間を往復すると遠くてお金がかかるのに、なぜわざわざタイなのか。差別的になってしまいが、タイの人がこういったものをつくることのできたということを不思議に思った。
私たちがアジア製のものを購入することで、企業が需要に応じて供給を行い、資源の減少、水質汚染や大気汚染などの公害が進み、さらに貧富の差が大きくなっているかもしれない。
(Made in) マレーシアの上着 アジア製品が多いなかで、服はマレーシアやベトナムが多かったから、つくるものによって生産国が分かれているのか疑問に思う。
アジア製品が多い理由が分かった気がする。それぞれの国の地域性がいかされ、つくられていることもわかった。でも、解決できていないことや大変な人がいるということも忘れずに使いたい。
(Made in) フィリピンの水筒 ほとんどの企業がつくっている国を固定しているのはなぜだろう。
この水筒をつくるために誰が苦勞しているのか、どんな環境でつくっているのか。いろんなことを考えて、もっと理解できるようになりたい。

(3) 地球的課題の重点化

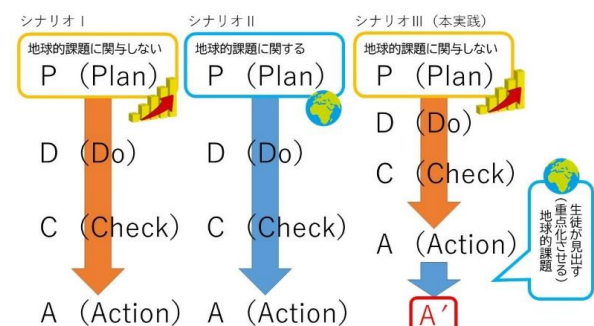
地球的課題とは、地球上の各地で現れる普遍的な課題であり、グローバル化する国際社会において、人類全体で取り組まなければならない課題、例えば、持続可能な開発目標(SDGs)などに示された課題のうちから、生徒が地理的な事象として捉えやすい地球環境問題や資源・エネルギー問題、人口・食料問題、居住・都市問題などに関わる課題を取り上げることの意味し

ている。本実践では生徒に地球的課題の概念を、表2のように捉えさせたいと考えた。

(表2)段階別地球的課題の概念例

段階	地球的課題の概念（生徒の言葉で表記）
1	（私にとって）地球的課題とは、その地域に特に見ることのできる、地球上に存在する課題だ。
2	（私にとって）地球的課題とは、その地域に特に見ることのできる、地球上に存在する課題だ。持続可能な社会をめざすために何が必要だろう。
3	（私にとって）地球的課題とは、その地域に特に見ることのできる、地球上に存在する課題で、自分の生活や将来とも関わりがある。持続可能な社会をめざすために、私に何ができるだろう。

段階3のような概念を形成するための一つの方法として、地球的課題に関する追究を敢えて単元の後半にもっていくように単元計画を作成した。（図5）



(図5)単元課題設定シナリオ例

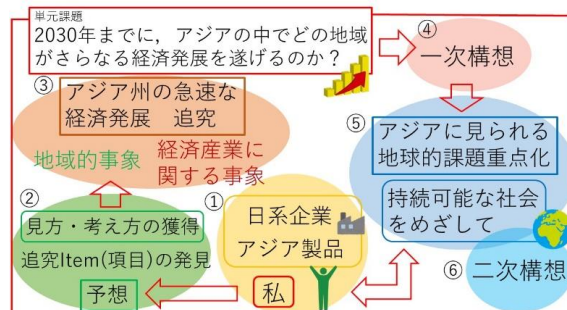
地球的課題に関する単元課題を設定し、課題解決型として追究をすすめていく単元のシナリオⅡについて、以下のような欠点を招く恐れがあると考えた。

- ①生徒の単元への学習意欲の低下
- ②その地域に対する偏りのある概念形成

第一に、生徒の単元へのモチベーションだ。「遠く離れた地域に課題がある。」と言われても、どんなに導入で生徒の心を動かす教材資料を用意したとしても、それを生徒のリアルな生活に近づけることは難しいと感じる。第二に、その地域の、例えばアジア州が「地球的課題しかない。」という一面的で、偏見的概念をつくりだしてしまう恐れがあると考えたためである。単元課題について追究していく中で、その地域の地理的特色と地球的課題の双方をバランス良く学習し、概念形成を図ることが望ましいが、どちらか一方に偏ることも経験上少なくない。

そこで、本実践ではシナリオⅢのように、直接的に

は地球的課題の考察をせず、単元の終末で地球的課題を扱うという単元の流れを実践した。さまざまな地域的特色を知識として獲得した後であれば、より一層地球的課題が生徒たちの中で重点化され、アジア州を例にするならば、「自分事（私）」「経済発展」「地球的課題」の3つのつながりに気付くことができると考えた。（図6）



(図6)単元構想イメージ図

「2030 年までに、アジアの中でどの地域がさらなる経済発展を遂げるのか」という課題に対して、生徒たちはアジアの経済発展を続けている要因や強みを追究した。同時に、各地域に見られる地球的課題に関する事象も経済のマイナス要因として挙げられたが、そこには持続可能な開発につながる構想や自分事としての関連付けは見られない。本実践の第7時に「本当にそうか」と考えを揺さぶり、二次構想的に地球的課題を学習課題に設定することで、「良く知らない地域の地球的課題を追究する」ことから「学んだ地域の地球的課題を追究する」状態へ変化させることができた。

4 実践報告Ⅱ イー見方・考え方を自覚させて

本実践の第2時において「2030 年までにアジアの中でどの地域がさらなる経済発展を遂げることができるのか」小集団で予想を立てる授業を行った。東アジア、東南アジア、南アジア、西・中央アジアの中で1位～4位のランキングを立て、より正確に判断するために学ぶ必要がある Item（項目）を、付箋に単語またはタイトルで記入し、全体で共有した。その際、生徒から挙げられた Item を「地域性 Item」と「経済産業 Item」の定義を紹介し、教師主導で分類した。

（表3）

(表3)地域性 Item と経済産業 Item の定義

<地域性 Item> 単元課題を判断するために、一見、直接は結び付かなそうな地域に関する見方（視点） 【例】人口、自然環境、位置、教育、治安 など
<経済産業 Item> 単元課題を判断するために、直接結びつくと考えられる経済産業に関する見方（視点） 【例】農工業、IT産業、GDP、貿易 など

地域性 Item とは？ …学習課題「経済発展の理由とさらなる展望」を判断するために、一見、直接は結びつかないような地域に関する見方（視点）	経済産業 Item とは？ …学習課題「経済発展の理由とさらなる展望」を判断するために、直接結びつくと考えられる、経済産業に関する見方（視点）
「経済発展の理由と、さらなる展望」を判断するために必要な地域性（緑）Item は？	「経済発展の理由と、さらなる展望」を判断するために必要な経済産業（赤）Item は？
自然環境 気候 位置 人口 世代 民族 人口密度 死亡率 医療 国土面積 宗教 衣食住 文化 言語 歴史 国民性 環境問題 教育 治安 政治情勢 法律 ネット環境 外交 食料自給率 国家予算 信用 戦争・紛争	工業 農業 商業 観光業 資源 輸出入 貿易 グローバル化 交通 港湾・空港 労働力 賃金 労働環境 経済政策 企業の種類 科学技術 I T 物価 地価 需要 GDP

生徒たちはこれら Item を本単元の追究する過程で活用した。

(図8) また、第6時に経済発展予想の最終結論を導くための討論を行った際にも、各地域の特色が Item によって強調されたり、Item の比較や関連付けを通して各地域のクリティカル的な思考が生まれたりするなど、生徒の多面的な思考・判断を促すことができた。

Figure 1 shows a hand holding a tablet displaying a Japanese website. In the background, a green chalkboard contains handwritten notes in Japanese. The notes include a title '＜機能的＞How', a list of items with checkboxes, and a table with columns for '名前' (Name) and '年齢' (Age). The table lists '山崎 太郎' (Yamazaki Taro) and '山崎 花子' (Yamazaki Hanako) with ages '24歳' and '21歳' respectively. There are also some other notes and a small diagram on the board.

右:(図9)Itemによって強調された地域の特色



288

5 実践報告Ⅲ 教室をこえたリモート小集団追究 (1) リモート小集団授業について

令和2年度の本実践、自分事にするための手立て、見方・考え方のItem化を踏まえて、令和3年度は研究協力員である大石英明教諭（御前崎市立浜岡中学校）と浦田智之教諭（島田市立金谷中学校）に検証授業実践をしていただいた。本単元の第7時の授業までを各学校の生徒の実態に合わせて研究協力員の先生方にリメイクしていただき、第8時にそれぞれの学級をリモートで繋ぎ、同時刻に授業を行い、小集団追究を行う試みを行った。

Aー御前崎市立浜岡中学校の実践（令和3年10月7日 第7時公開授業、10月14日リモート授業）



(図11)浜岡中学校第7時公開授業の様子

公開授業では、二次構想場面としての地球的課題のシナリオプランニングをICT（Google スライド）によってまとめる授業を展開していただいた。これまで学習してきたItemをスライド内に画像データとして貼り付けたり、移動したりできるように準備していただいた。アジア州における現状の地球的課題を表す写真資料を大石教諭が提示すると、生徒からは大きなリアクションがあり、「本当に東アジアが1位でいいのかな」というつぶやきも見取ることができた。

「自分事」としてのつながりを見出す小集団は見られなかったが、1人1台タブレット端末を駆使して、協働的に「経済発展」と「地球的課題」の因果関係をスライドにまとめていた。

1 さわやかなあいさつ 「こんにちは、よろしくお願いします！」

2 課題「自己紹介」と「アジア州の学習を振り返って」 ※1人3分以内 練習しておきましょう！

① 自己紹介（名字だけでもOK かんたんに）

② 私が担当したアジア州は…【 アジア】です。
【アイテム（Item）と資料を使ってまとめてみて、～～ということが分りました。】

③ 私が2030年までに、最も経済発展を遂げようとした地域は【 アジア】です。
【理由は、～～だからです。】 **経済発展**

④ 私が最も印象に残っている地球的課題は、【 】です。
【理由は、～～だからです。】 **地球的課題**

よろしくお願いします。

(図12)学習の成果を伝えるためのワークシート

リモート小集団授業では、本校2名、浜岡中2名のグループをマッチングさせ、最大4名の小集団をGoogleMeetで繋ぎ、図12のワークシートを用いて学びの成果を報告し合った。その後、「アジア州と私たちのつながりとは何か」という学習課題を小集団で考察し、Google スライドにウェビングマップを作成させた。残念ながら学習課題は時間の都合上作成しきれずに終える小集団がほとんどであったが、最後の全体共有の場面では、浜岡中の代表生徒が「私とアジア州のつながり」について考えをリモートで述べてくれた。

Bー島田市立金谷中学校の実践（令和3年11月10日 第7時公開授業、11月18日リモート授業）



(図13)金谷中学校第7時公開授業の様子

公開授業では、浜岡中学校の実践と同じく地球的課題についてGoogle スライドにまとめる授業を展開していた。第3・4時に生徒一人ひとりが作成した個人のスライドに追加する形で、「地球的課題」と「SDGs」について調査、考察を小集団ごとに行っていた。金谷中では教科外に特別活動等でSDGsについて触れており、SDGsを入り口にすることで地球的課題への調査、考察が進んでいた。



(図14)金谷中学校とのリモート授業の様子

学習課題 アジアに最も必要なSDGsは何だろうか？

4 どれから始める？SDGs！
17の目標はすべて大切ですが、アジア州は特に、どのSDGsから始めるべきなのでしょう？
今までの学習を振り返り、自分の考えを伝え合って、グループで1つ決めてください。

<私の考え> SDGs ナンバー【 】 理由	<グループで決めた考え> SDGs ナンバー【 】 理由
------------------------------	------------------------------------

5 グループの話し合い終了（～10:05） 全体会へ移動（10:10～） 6 先生方より

7 今日の授業を振り返って、次の「振り返り用紙（自己調整用紙）」に記入しましょう。

<分かったこと> 私の学習へ取り組みの態度は【 5 4 3 2 1 】でした。 <どんなところが？>	<ギモンに思ったこと> <先生へ>
--	--------------------------

(図15)アジア州の学びからSDGsを選択・判断するためのワークシート

リモート小集団授業では、浜岡中と同様に自己紹介を含めて学習の成果を伝え合った後に、「アジアに最も必要なSDG sは何か」という学習課題を立てて追究した。SDG s から1つを選択した理由を見てみると、アジアに見られる地球的課題の共通点を見出し、「1 貧困をなくそう」「2 飢餓をゼロに」を選択・判断した小集団が多くみられた。「7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに」や「9 産業と技術革新の基盤をつくろう」も見られ、獲得したアジア州の概念を表しながらリモートの画面越しに説明し合っていた。

振り返りには以下のような内容が多くの生徒に書かれていた。

<分かったこと>

- ・SDG s で挙げられている目標は、それが達成できていない国でしか活動することができず、大企業でしかやれないと思っていたけれど、自分たちの食べ残しや汚水の流出など、一人ひとりが意識をもって行動していけば、その連鎖ですべての目標が達成できると思う。

<先生へ>

- ・リモートで他の学校と関わって話し合う機会は、同じ大きな目標をもっている気がして良いと思いました。またやってください。

（２）事前、事後アンケートより

本実践をおこなった浜岡中学校と金谷中学校の生徒に単元を始める前と、単元を終えた後にアンケートとして図16・17を記入してもらった。

社会科 地理に関するアンケート（1回目）

1年 組 番 氏名

1 あなたは、社会科の地理が好きですか。5～1の数字を○でかこんでください。
また、その理由を書いてください。

5 (好き) 4 3 2 1 (嫌い)

<選んだ理由>

2 なぜ、授業を通して社会科の地理を学ぶのでしょうか。
今のあなたの考えに最も近いものを、次のア～キの中から1つだけ選び、記号を○でかこんでください。
また、その記号を選んだ理由を簡単に書いてください。

ア 定期テストで高い点数を取るため
イ 地理で学べる地形名や用語の知識が将来役に立つため
ウ 分からないことを調べ、発表する力を身につけるため
エ 社会（世の中）を見たり、考えたりする力を身につけるため
オ 考えの違う人と話し合って課題を解決するため
カ 正直、わからない
キ その他（ ）

<選んだ理由>

3 「アジア州とわたし」というタイトルで、短い文章を自由に書いてください。
思いつくままでもかまいませんし、書けなくても大丈夫です。

4 「アジア州」について、知りたいことや考えてみたいことはありますか？あれば書いてください。

アンケートのご協力、ありがとうございました。静岡大学教育学部附属豊田中学校（社会科部）

（図16）本実践開始前のアンケート（1回目）

社会科 地理に関するアンケート（2回目）

1年 組 番 氏名

1 あなたは、社会科の地理が好きですか。5～1の数字を○でかこんでください。
また、その理由を書いてください。

5 (好き) 4 3 2 1 (嫌い)

<選んだ理由>

2 なぜ、授業を通して社会科の地理を学ぶのでしょうか。
今のあなたの考えに最も近いものを、次のア～キの中から1つだけ選び、記号を○でかこんでください。
また、その記号を選んだ理由を簡単に書いてください。

ア 定期テストで高い点数を取るため
イ 地理で学べる地形名や用語の知識が将来役に立つため
ウ 分からないことを調べ、発表する力を身につけるため
エ 社会（世の中）を見たり、考えたりする力を身につけるため
オ 考えの違う人と話し合って課題を解決するため
カ 正直、わからない
キ その他（ ）

<選んだ理由>

3 「アジア州とわたし」というタイトルで、短い文章を自由に書いてください。
思いつくままでもかまいませんし、書けなくても大丈夫です。

4 「Google Meetを使ったリモート授業」はどうでしたか？
やって良かったと思うことを、自由に書いてください。

アンケートのご協力、ありがとうございました。静岡大学教育学部附属豊田中学校（社会科部）

（図17）本実践開始後のアンケート（2回目）

項目1～3はどちらも同じ内容であり、項目4については2回目を「リモート授業をやった良かったと思うこと」に変更して記入してもらった。プラスの側面に限定して尋ねたのは、リモート接続時の不具合ではなくリモート小集団授業の成果を見取りたかったためである。2回のアンケートで大きな変容が見られた3名の生徒をまとめる。

〔生徒A〕

（1回目）

1 3
地理を学習する時、知識を得て、楽しいわけでもないし、損するわけでもないから。好きでも嫌いでもないのでつう。

2 ア
学習しても将来地理の知識を必要とすることはあまりないと思うから。未来ではなく、今役立てるテストのために学習する。

3
アジア州は大きな地域だと思う。けど、あまり知っていないことがない。

（2回目）

1 4
自分の住んでいる世界がどんなものだったか、どうなるのかなど状況が知れたり、これからのもので重要なことが学べたりするから。

2 エ
世の中の状況は、自分に影響するものが多いと思う。だから、自分のため、世のためになることを知る必要があると思ったから。

3
私が住んでいるアジア州は「良さ」も「悪さ」もある。これから私たちが

4
(記述なし)

「良さを持続→より良く」できるのか、「悪さを改善」できるのかは、私たち次第！！

4
自分が思っていなかった違う部分に注目している附属中の方々の意見を聞けて、考えがより深くなった。

[生徒B]

(1回目)

1 5
地理は国々の特徴や良さなど面白いことを知れるし、今世界はどういう状況なのか知ることができるから。

2 イ
将来にそういう仕事にもし就いた時に、知識がないと自分が困ってしまうから、役立つと思う。

3
アジア州は日本側にあって、中国やロシアなど有名な国がたくさんある。悪い意味になるかもしれないけど、ロシアや中国と日本との領土問題が多い。

4
(記述なし)

(2回目)

1 5
今回学んだアジア州もそうだったけど、色々な用語とかが将来の自分に役立つし、考える力がとても身につくから。

2 エ
なんで今こうなっているのか？など、後々になって分かっていくことがたくさんあるから。

3
私にとってアジア州とは、人々の助け合いなど多くて、製品を輸出しているのがとても多いです。ただ中には、差別や格差などの問題があって、困っている人もたくさんいます。

4
知らないはじめての人と発表したり考えたりしたため、話せないのはまずいと思って気合が入った。

[生徒C]

(1回目)

1 4
地理をやっている時に新しい言葉などを覚えると楽しいから。

(2回目)

1 5
地理を勉強していくにつれ世界のことが詳しく知れてよかった。自分たちができることを見つけられたりする。

2 キ (楽しいから)
点数を取るのはもちろん大事だと思うけど、楽しいと思わないと勉強も進まない。

3
暑いところや寒いところがあっていいと思う。

4
(記述なし)

2 エ
僕は前まで世の中のことを知らなくて、悪い所があっても身の回りにあるということを全然意識していなかった。今は、自分ができることをしていこうと考える。

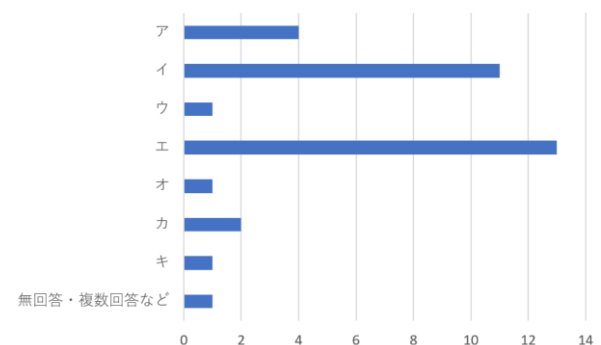
3
僕はアジア州のおかげで便利な物などが気軽に買えていいなと思うし、アジア州の人々に尊敬します。

4
僕はリモート授業をやっているんなことを知れて良かったと思うし、こういう機会を得られたのは良い経験だと思う。

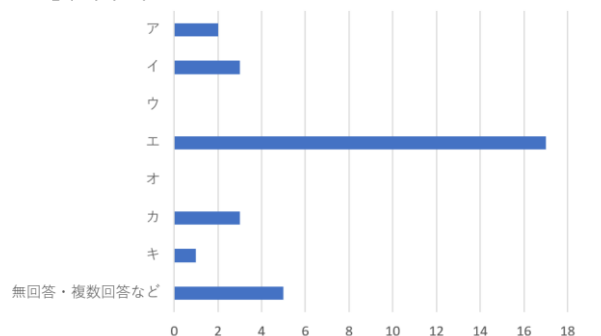
すべての生徒ではないが、本実践を通して自分なりに社会科を学ぶ意義を見つめ直し、主体的に社会に参加しようという思いをもつ生徒がいたようだ。

また、浜岡中のアンケートから次のようなデータが収集できた。

2「なぜ、授業を通して社会科の地理を学ぶのでしょうか。」(1回目)



2「なぜ、授業を通して社会科の地理を学ぶのでしょうか。」(2回目)



明らかに「イ 地理で学べる地形名や用語の知識が将来役立つため」を選んだ生徒が 11 人から 3 人に減少している。2 回目のアンケートの「無回答・複数回答等」の内訳は、無回答 1 人、複数に○をつけてしまった生徒 4 人であり、生徒たちの考えをどう検証するか難しいところだが、少なくとも生徒たちにとっては本検証授業、リモート授業実践は、社会科を学ぶ意義について生徒たちが考えるきっかけとなる内容だったのではと推察する。社会科が、言葉を暗記するだけの教科ではないことを僅かでも感じてもらえたら幸いであり、本実践に取り組んでいただいた研究協力員の先生方には頭が下がる思いだ。

6 おわりに

中学校社会における学びの意義を高める手立てとして、教材そのものの魅力を高めることも重要である。しかし、魅力ある社会科の教材で「何を構想したか」「どう構想したか」「何ができるようになったか」「どうアプローチしていくか」といったことが生徒の学びの意義を高める上では必要であると改めて感じた。本実践では、アジア州という教材を自分事に感じさせるために、ICT の活用、ポートフォリオや単元計画作成の工夫をした。検証が不十分であるが、振り返りの記述には「僕、私」という言葉が多く見られ、生徒にはこれからも社会とのつながりを感じながら学んでいってほしいと思う。また、見方・考え方の視覚化としての「Item」という表現は、生徒たちに浸透しつつある。「これとこれの Item を見ると、こう考えられるのではないか」というような、多面的・多角的な思考の整理のために、一役買っているという感想を授業者としてもっている。Item を使う度に、比較・統合・関連付けといった考え方に通ずるスキルも身についてきていると感じる。これも検証が不十分だが、多くの先生方と実践を通してこれからもデータを集められたらと思う。

最期に、リモート小集団追究についてだが、やはりまだタブレット端末の操作や設定、接続などの環境面での課題が多く見られた。50 分という授業時間の中で、思うような追究を生徒にさせてあげられなかったことが悔やまれるが、生徒たちの反応は、満場一致で「またやりたい」という前向きなもので、かえってこちらが驚かされた。机上の空論で終わらせないアプローチの方略を、これからも探っていきたい。

【参考文献】

- ・社会編中学校学習指導要領（H29 告示）解説
- ・澤井陽介，加藤寿朗：見方・考え方〔社会科編〕「見方・考え方」を働かせる真の授業の姿とは？（2017）東洋館出版社
- ・伊藤崇達：自己調整学習の成立過程 学習方略と動機づけの役割（2009）北大路書房
- ・主体的学び 3 号 アクティブラーニングとポートフォリオ（2015）主体的学び研究所（p5～p32）森本康彦「e ポートフォリオがわかる！虎の巻【入門編】」